

## 31年1月分 合板工場の荷動き・価格先行き動向調査 1

1. 調査実施期間 平成31年 1月1日～ 31年1月10日

## 2. 調査実施方法

全国の合板工場-1に対し、アンケート調査票を送受することにより実施した。  
1月分の回答企業数は7社である。

## 3. 判断指数の算出方法

各調査項目について以下の方法でウェイト・ディフュージョン・インデックスを算出した。

Weight.D.I.(ウェイト・ディフュージョン・インデックス)={(「増加」の評価を行った回答の割合)×2+(「やや増加」の評価を行った回答の割合)-(「減少」の評価を行った回答の割合)×2-(「やや減少」の評価を行った回答の割合)}÷2  
したがって、この割合がゼロの場合はその増加と減少が等しいことを示し、プラスになるほど増加が多く、逆にマイナスになるほど減少が多いことを示す。

## 4. 調査結果の概要

## (1) 国産原木入荷動向 Weight. D. I.

品目		31/1月	2月	3月
入荷動向	スギ	△ 16.7	△ 25.0	0.0
	ヒノキ	△ 16.7	△ 16.7	△ 16.7
	カラマツ	8.3	0.0	8.3
	トドマツ	0.0	16.7	50.0
消費動向	スギ	△ 16.7	△ 25.0	0.0
	ヒノキ	0.0	△ 16.7	16.7
	カラマツ	8.3	0.0	10.0
	トドマツ	16.7	16.7	16.7
在庫動向	スギ	△ 16.7	△ 8.3	△ 16.7
	ヒノキ	△ 16.7	△ 16.7	△ 16.7
	カラマツ	△ 8.3	△ 25.0	△ 8.3
	トドマツ	△ 50.0	△ 16.7	0.0

・スギ国産原木の入荷動向は1月、2月の減少から3月は横ばいに。ヒノキは3カ月連続減少。カラマツは1月の増加から2月は横ばい、3月は再び増加に。トドマツは1月の横ばいから2月、3月は増加に。

・スギ国産原木の消費動向は1月、2月の減少から3月は横ばいに。ヒノキは1月の横ばいから2月は減少、3月は増加に。カラマツは1月の増加から2月は横ばい、3月は再び増加に。トドマツは3カ月連続増加。

・スギ、ヒノキ、カラマツ国産原木の在庫動向は3カ月連続減少。トドマツは1月、2月の減少から3月は横ばいに。

## (2) 合板用原木購入価格動向 Weight. D. I.

品目	31/1月	2月	3月
スギ	33.3	8.3	8.3
ヒノキ	33.3	0.0	0.0
カラマツ	25.0	25.0	8.3
米マツ	0.0	△ 25.0	0.0
北洋カラマツ	25.0	25.0	25.0
その他	50.0	50.0	50.0

・合板用国産原木の購入価格動向はスギ、ヒノキ、カラマツ、その他(トドマツ)とも強保合。

・外材は米マツ保合、北洋カラマツは強含み。

## モニターからのコメント

(原木荷動き)

- ・カラマツ、トドマツの入荷難、在庫はも減少。消費は1～2月の稼働日数少なくやや減少。
- ・雪が少なく伐採は順調だが、引合いが強くスギ、カラマツとも入荷減。消費は横ばい。スギ、カラマツとも在庫減少。
- ・スギ冬山伐採が始まり入荷増。2月に雪が多くなると運搬が遅れ少し減る見込み。トドマツは天候による船の遅れが出ており減少見込み。乾燥温度が上がりにくくなるので、比較的乾きの良いカラマツ消費量の増加が見込まれる。入荷が消費を上回るため、冬季はスギ在庫増になる。
- ・スギは非住宅物件対応で調達。カラマツは入荷横ばい。スギはインテリアタイプの需要拡大。カラマツは住宅メーカー向けで消費横ばい。在庫はスギ減少、カラマツ変わらず。
- ・スギ・ヒノキ入荷即使用状態。カラマツ消費増加。スギ・ヒノキ在庫がゼロ状態。
- ・スギ、ヒノキとも在庫が溜まったので、バランスを見ながら入荷を進める。消費は稼働日が多い3月以降に増える。

(原木価格)

- ・全樹種、全地域で原木価格上昇中。
- ・東北地区はスギ、カラマツとも強含み。外材はカナダ産米マツは弱含みだが、現地の在庫量が増えないため思ったほど下がらない。
- ・カラマツは他社も購入意欲があるので価格は上がる。
- ・スギは西日本方面が価格上昇、カラマツは横ばい。
- ・スギ、ヒノキ、カラマツとも上昇。

## 31年1月分 合板工場の荷動き・価格先行き動向調査 2

## 4. 調査結果の概要

## (1) 生産動向 Weight. D. I.

品目		31/1月	2月	3月
生産動向	構造用(9mm)	20.0	0.0	25.0
	〃 (12mm)	16.7	0.0	20.0
	〃 (15mm)	8.3	0.0	10.0
	〃 (24mm)	0.0	0.0	20.0
	〃 (28mm)	0.0	0.0	20.0
出荷動向	構造用(9mm)	25.0	△ 8.3	0.0
	〃 (12mm)	35.7	0.0	8.3
	〃 (15mm)	21.4	0.0	8.3
	〃 (24mm)	21.4	△ 8.3	0.0
	〃 (28mm)	25.0	0.0	10.0
在庫動向	構造用(9mm)	△ 25.0	0.0	0.0
	〃 (12mm)	△ 28.6	△ 7.1	0.0
	〃 (15mm)	△ 21.4	0.0	0.0
	〃 (24mm)	△ 28.6	△ 14.3	0.0
	〃 (28mm)	△ 28.6	△ 7.1	0.0

・ 構造用合板の生産動向は、9、12、15mmは1月の増加から2月は横ばい、3月は再び増加に。24、28mmは1月、2月の横ばいから3月は増加に。

・ 出荷動向は、9、24mmは1月の増加から2月は減少、3月は横ばいに。12、15、28mmは1月の増加から2月は横ばい、3月は再び増加に。

・ 在庫動向は9、15mmは1月の減少から2月、3月は横ばいに。12、24、28mmは1月、2月の減少から3月は横ばいに。

## (2) 構造用合板出荷価格動向 Weight. D. I.

品目	31/1月	2月	3月
構造用(9mm)	0.0	0.0	10.0
〃 (12mm)	0.0	0.0	0.0
〃 (15mm)	0.0	0.0	0.0
〃 (24mm)	0.0	0.0	0.0
〃 (28mm)	0.0	0.0	0.0

・ 出荷価格動向は全ての品目で横ばい。

## モニターからのコメント

## (構造用合板の荷動き)

- ・ 1～2月は稼働日少なく生産減少。前年繰越の受注と新規出荷多い。在庫は2月から横ばい。
- ・ 1月、2月とも稼働日少なくほぼ横ばいの生産計画。出荷は配送も回復し、先月の受注残の消化も含め好調に推移。在庫は全体的に減少。
- ・ 厚物は動きが今一なので、特に12mmの生産比率を上げている。1月いっぱい荷動きが良いので在庫は減少。
- ・ 9mmはマンション業界への販売メイン。1～3月は住宅引渡しに向け。構造材の出荷は減る見込み。当社は元々製造量が少ないが、東北のメーカーの配送が上手く機能してないためか、弊社への引合いが増えており、よって在庫は減少予定。28mmは製造なし。
- ・ 原料入荷に伴い12、24mmの生産増加、出荷24、28mm増加。在庫は全品種減少傾向。
- ・ 稼働日数次第の生産となる。12mm、ネダノンの引き合い強く、生産状況に合わせて出荷。在庫は低水準のまま維持する。

## (構造用合板の価格)

- ・ 原料コスト、運送費等を含め出荷価格アップ傾向。
- ・ 横ばいで推移。今後の在庫、市況により上昇もあり得る。
- ・ 春ごろから値が下がると見込んでいる。
- ・ 荷余り傾向なく価格は横ばいと考える。
- ・ 原料上昇により出荷単価上昇を望む。
- ・ 全品目価格横ばい。原木価格、輸送コスト次第では価格見直しもあり得る。